

叱ることは逆効果 子どもは褒められて学ぶ

物事の善し悪しを理解し始める5歳児。

この時期には、周囲に合わせることや

ものの貸し借り、順番など、日常生活を通して

少しずつ社会のルールを学ばせましょう。

Ambitious

清水絵津子さん

ビジネスマナー講師、コンサルタント。企業、団体、ゴルフ場等での接遇（ビジネス）マナー・営業マン研修や講演活動を行う「Ambitious」代表。形だけでなく、徹底して現場で即実践出来る、わかりやすい教え方が好評。



買い物に行ったお店で、お子さんが「お菓子を買って!」と癪癪（かんしゃく）を始めて大変だったという経験は、きっと誰もがもちだだと思います。そんな時、皆さんはどのようにお子さんと接し、社会のルールを教えていますか?

たとえばこの場面では、大きな声で叱ってしまうのは逆効果です。なぜなら、「叱る=自分に注目」となってしまうから。それでは、こうした場面での理想的な対応の一例を紹介しましょう。まず初めにお子さんを抱きかかえ、なるべく周囲に迷惑がかからない静かな場所まで連れ出し、気持ちが落ちつくまで辛抱強く待つこと。叩いたり暴れるようであれば、手や体を力一杯に押さえ、お子さんの力が緩んだら自分も緩めます。泣いてもわめいても、絶対に言葉をかけたり、視線を合わせたり、叱ってはいけません。そして、お子さんの感情が収まったところで、「うん! よく我慢ができたね」とやさしく褒

めてあげます。ここまでできれば、欲しがっていたお菓子を買ってあげるのも良いでしょう。大切なことは、ルールや約束を守ったら褒めてあげること。ママが決して根負けしてはいけません。

また、子どもは友達と喧嘩をすると、起こった出来事を自分に都合が良いように解釈して話すことがあります。こうした場合には、正しい事実関係を細かく聞き出すのではなく、「○○ちゃんにはそう見たんだね。でも、お友達の○○くんには違って見たのかもしれないね」とやさしく伝えてあげましょう。仲直りのきっかけづくりは、こうした会話のコミュニケーションから始まります。

